



沖繩の叫び

内山憲尚

一、沖繩はどここの国の領土か

沖繩から帰って、各地の小中学校や母の会等から沖繩の話をしてくれとたのまれて、話に行く。話に入る前に「皆さんは沖繩はどここの領土と思いますか、日本の領土だと思ふ人は手をあげて御覽なさい。アメリカの領土だと思ふ人は手をあげて御覽なさい」と尋ねて見る。今まで聞いて見たところでは、小学校では「アメリカの領土だと思ふ方が」六、七割、「日本の領土」と手をあげるのが三、四割である。中学で半々と云うところである。母の会やPTAではどっちへも手をあげない——これは確信がない証拠である。

沖繩の今日の住民の祖先は、大古に九州南部にいた海部が黒潮にのって入島し、こゝに居ついたものであると云われている。文献では推古天皇二十四年から交通が始まっていることが見えている。永万元年（一一六五年）源為朝が入島し、大里接司の妹を娶り、一千尊教を奉ぐ、尊教は幼にして力強く、二十才の時天孫氏の王位を奪った逆臣私勇を誅して王位についたと語られる。

後年は徳川幕府島津藩に命じてその支配を一任した。明治五年、薩藩置県に從つて、琉球県が置かれ、明治十二年沖繩県と改称した。これは誰が何と云つても日本の領土であつて、戦に勝つたからと云つてアメリカが占有することは許されない。

日本の敗戦と共に、一九四五年ニミッツは北緯三十度以南を日本行政から切り離し米軍政下に置くことを宣し、同時に、琉球政府が置かれ、主席（総理大臣）は米軍の任命によつて定められた。

即ち沖繩は、日本の領土であるが、現在では政治は米軍によつてなされていると云う形である、即ち平和条約を結ぶ前の日本の様な状態が続けられているのである。

二、緑の島から赤土の島に

沖繩は戦前は緑の島であつた、春夏秋冬を通して深い緑の間に赤い屋根の中国的な家が建ち全く竜宮を思わせる宝の島であり夢の島であつた。

沖繩を琉球と呼ぶのは中国（昔の支那）の呼び方であつて、リュ

ウキウは竜宮であると云われている。(安斎隨筆による)

沖繩が竜宮であると云う考証は浦島伝説と結びつけられて古くから發表せられ徳川時代になって草紙類で浦島を取り扱うようになってからは多くの書物で竜宮即琉球説を掲げている。「名言通」は琉球は竜宮なりと言いつ切り、「天地或問珍」には、袋中(浄土宗の僧)が琉球神道と云う書に、琉球の王宮に額あり、その額に竜宮城と書いてある由が記してある。

かつては現実の竜宮であった沖繩、首里の王宮の美麗、すみ切った空の色に、絵具をとかした青い海、南国情緒豊かな緑の島も、太平洋戦争において日米の一大決戦場となり海陸空からの物すごい砲撃によって、島は化して赤土となり、山は形を変えてしまったのである。

三、沖繩の教育

沖繩の教育は日本本土と同じく、六・三制であり、教科書も文部大臣指定のものを使用している。小学校百数十校、中学校五十数校、高等学校二十数校、大学(琉球大学)一つに幼稚園は二十数園。教育行政は琉球政府内に文教部(文部省に相当するもの)があつて之を行っている。

言葉は標準語で、本土の僻地よりは完全な標準語を使っている。毎年一回全島の「お話大会」を開き、小学校低学年は童話、高学年はお話、中学校は弁論のコンクールを開いている。二、三代表の話聞いたが相当なものである。

小中学校は大半は掘立小屋のカヤぶき屋根で窓のない教室で、土

間の上に粗末な机が置いてある。雨が降ればじやじや濡りで傘をさして勉強する仕末、年四、五回は強烈な颱風に見舞われるが、その都度地上にたたきつけられ、先生やP・T・Aのおじさんたちも手伝って颱風がおさまったら建て直すのである。

幼稚園は二十数園あるが殆んど小学校に併置されている。小中学校でさえ、この状態であるから、幼稚園まで手がとどく筈がない。小学校よりまだおさまつたものである。

ところが昨年あたりから、入園希望者が激増して、どここの園でも二倍三倍の率を示している。そこで一組六十名七十名のクラスを作らねばならない実状である。

しかも、琉球政府文教部ではまだ幼稚園に対しての明確な指標と教諭の資格づけや、教諭養成乃至、指導にまで手をのばしていないのである。

今回筆者が行つたのは、琉球政府文教部と沖繩P・T・A連合会の招きによつたものでスケジュールも小学校以上の学童及び教諭父兄を対象としていたが、最後の日に幼稚園の先生たちの講習を三時間ばかり持つことにした。

当日は午後一時から幼児へ童話とポントン紙芝居を演演し、終つてから、先生方にお話をした。全島から集つた先生方約三百名も集られた。聞けば二十里もの遠くから昨夜から泊り込みで来られたと承つて全く恐縮してしまつた。

聞くところによると幼稚園の先生だけが集つて、幼稚園保育の話聞くのは始めてであると云つていられた。

園児たちは毎日水筒をかけて来る、途中咽喉がかわいたらの心の

である。地質が岩で出来ているので水道がない。そこで自然水筒を毎日持って行く様になったのであろう、沢山の園児たちが水筒をかけて登園、退園する光景は、本土では一寸遠足を想わせる。物資の不足していることから遊具などの設備は不完全である。

四、沖繩の叫び

日本必勝を信じ、「本土の上陸は沖繩の落ちるのが一日おくれたら一日のびるんだ」その強い信念をもって戦い、わずか十里たらずのところを三ヶ月間保持し、十六万の島民を犠牲にしたのである——然し、誰一人日本をうらむものもなく、一日も早く日本復帰を心から祈っているのである。

本年の天皇誕生日に島民の希望により、日の丸の旗を立てることを許したら、学校、会社は勿論各家庭から、学童まで手製の紙の日の丸の旗を高く竿の先に結びつけて町をねり歩いたのであった。どんなにうれしかったかが想像される。

第八回の終戦記念日を前にして奄美大島は日本の領土として返還された、奄美大島の人たちは夜を徹して日本復帰をよろこんだのである。

沖繩に日の丸の旗が立てられる日は何時か。

六月二十八日！私が沖繩に着いた翌日、第三回全島教職員大会が開かれ、来賓として参加して会の様子をつぶさに見た。

大会スローガンは、

不退転の決意を新にして祖国復帰への実現に邁進せん。

祖国八千万同胞は我々と共に在り。

我々の歴史的進路を阻む障碍を断乎排撃せよ。
と云うのである。

会の最後に「前進歌」と云うのが歌われた。これは共産党の歌ではない、日本復帰を願う歌である。

友よ！ 武器は言葉だベンだ

目ざす行手は祖国の春だ

前進、前進、あくまで前進だ

友よ！ 仰げ日の丸の旗

地軸ゆるがせ 我等の前進歌

前進、前進、あくまで前進だ

会場に集った二十人の人たちが心をこめて歌う前進歌——たゞひ
たすらに復帰を願う真情の叫び……私は涙が出て、涙が出て、どう
することも出来なかつた。

(聖美幼稚園長・駒沢大学講師)